

# 琉球大学学術リポジトリ

## 写真や図を中心にみる琉球の農作物主要病害虫 (7)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田盛, 正雄, Tamori, Masao メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20008">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20008</a>

琉球の農作物主要病害虫

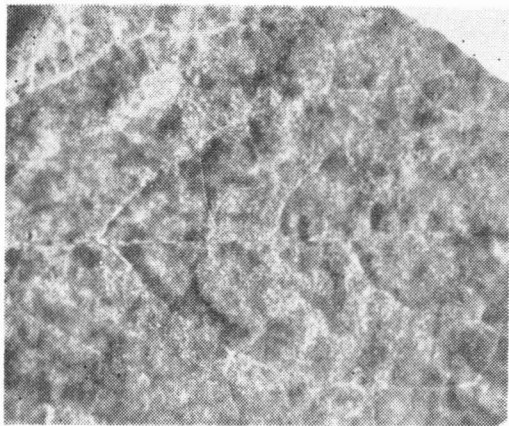
(7)

病害

ウリ類のウドンコ病(白波病)

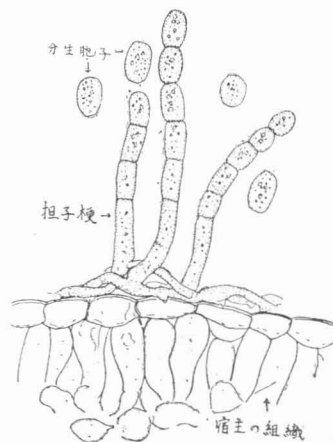
宿主 キウリ、カボチャなど瓜類に寄生し、またアズキ、ゴボウ、その他多くの植物に寄生する発生 琉球では一〇月から翌年六月ごろにかけて発生し、春にその発生が大きい。

病徴 葉、茎に発生し、はじめその表面にウドンコを散布したように分生胞子ができ、これはのちやや灰色となり、さらに黒色の小粒ができる。そして病葉はついに枯れる。



上 ウドンコ病の被害状態(キウリ)  
中 ウドンコ病菌

病菌 分生子種は円柱状で、無色、分生胞子は丸形、長丸形、無色、単胞、長さ二一三七中二二二二ミクロン。



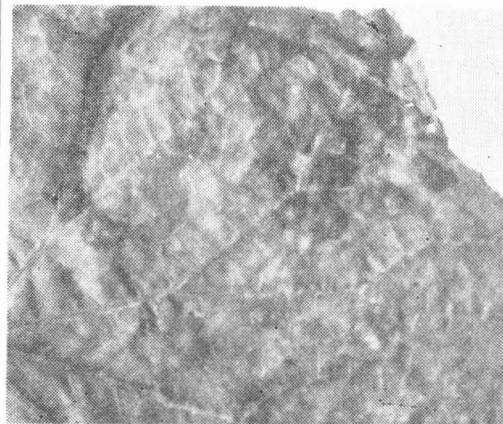
防除

一、早朝、露のある間にソイド一号五六一七五グラムを水一ハリットルにとかして散布する。  
一、石灰硫黄合剤二〇〇ー三〇〇倍液(〇、二一〇、一五度ボーメー比重)を散布する(注、ボルドウ液散布後二カ月は葉害をうけるから散布できない、又本剤散布に使用した容器は酢のうすいもので洗い、よく水洗する。人体をもおからずから注意を要する)。

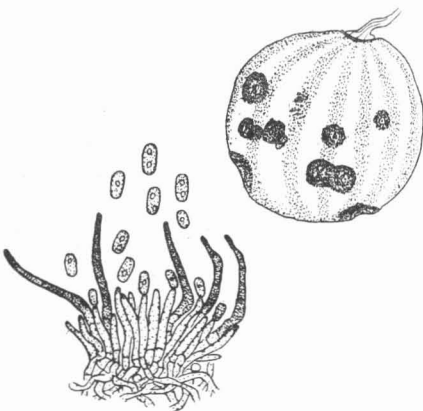
ウリ類のタンソ病

宿主 スイカ、キウリ、ヘチマ、ユウガオ、メロン、マクワウリ、レイシ、特にスイカに多い。

発生 一二月から翌七月にかけて発生する。病徴 葉、果実、蔓に発生し、葉では、初め淡黄色円形の斑点ができ、これはかつ色に変わつて、乾枯すると裂開する。果実には、はじめその表面



タンソ病(左下)とウドンコ病被害状態(キウリ)



右 タンソ病の被害(スイカ)  
左 タンソ病菌(キウリの葉より)

に黄白色、円形の凹斑ができ、これはのち黒かつ色となり、湿気があると病斑の表面に肉色のねばねばしたものの（胞子）を出す。

病菌 分生子梗は円筒状、無色、単胞で、長さ二〇―二五、巾二、五―三ミクロン。

分生子は、だ円形または円柱形、無色単胞で長さ一四―二〇、巾五―六ミクロン、葉では、分生子に混じて剛毛を生ずる。

**防除**

一、被害部は集めて焼きすてる。  
 一、ダイセン三七―五六グラムを水一八リットルにとかし、展着剤を加えたものを五―六日おきに散布する。

一、マンネブ二六―三〇グラムを水一八リットルにとかして散布する。

一、種子は、ウスブルン一〇〇〇倍液に六〇分間浸漬してのち播く。

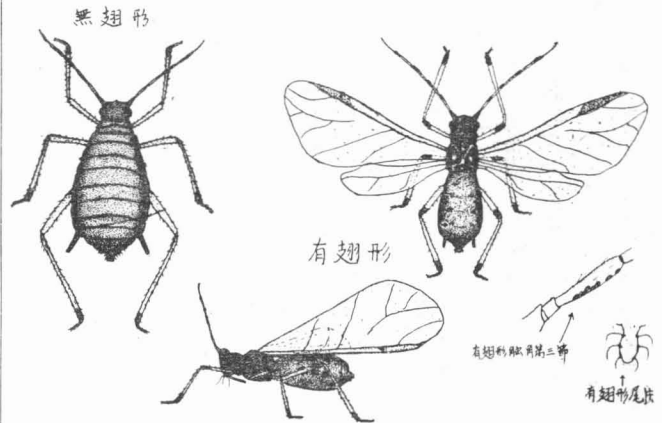
一、収穫に近づいた果は、ウスブルン五〇〇倍液に湿した布でふき、更に収穫後もふく。

**害虫**

**ワタアブラムシ**

形態 成虫はハネのないものと、あるものとがある。体色は淡黄色から、黒色まで変異がある。体長一、五ミリ内外、幼虫はハネのないものにて小さい。緑あるいは黄かつ緑色。

加害 キウリ、カボチャ、スイカなど瓜類の大害虫で、瓜類のほかユリ、ナス、サトイモ、ミカン、ヤナギ、キク、フヨウ、ムクゲ、パンジロウムラサキシキブ、クサギなど約五〇種の植物を加害する。幼虫、成虫ともに葉の裏、茎、花などにつき、吸取口をさし込んでその汁を吸うし、ユリ



ウリ類その他のモザイクウイルスの媒介をする。琉球においてはほとんど年中発生をみるが乾燥時には殊に大発生をすることがしばしばである。

**防除**

一、冬、野生の寄生植物ムクゲ、クサギなどに多くみられますからその防除につとめる。

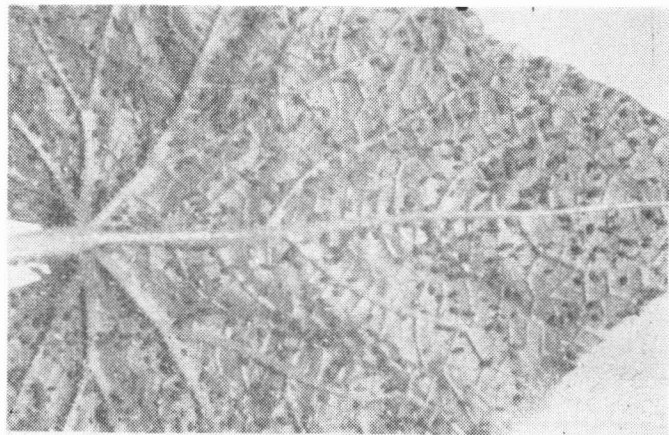
一、リンデン一%粉剤又は〇、〇四%水和剤液を散布する。

一、マラソン一〇〇〇―一四〇〇〇倍液は特によくきく。

一、テップ一〇〇〇―一三〇〇〇倍液、パラチオン二〇〇〇―一四〇〇〇倍液も効果が大きい（注意ゲキ薬）

（田 盛 正 雄）

上 ワタアブラムシ  
 下 ワタアブラムシの加害状態



発行所 琉球大学農家政工学部  
 発行人 島 袋 俊 一  
 印刷 沖縄タイムス社

指令第一九八〇号

一九五九年五月二五日印刷  
 一九五九年六月一日発行